

令和3年3月16日

令和2年度病害虫発生予報第12号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
麦類	うどんこ病	並	並
	赤かび病 (防除情報第11号継続)	—	並
ばれいしょ	疫病 (防除情報第12号)	—	並
きゅうり	べと病	やや多	やや多
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	少	少
	菌核病	並	並
	灰色かび病	並	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	並	並
トマト	黄化葉巻病	並	並
	灰色かび病	やや少	やや少
	コナジラミ類	並	並
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	やや少	やや少
	アブラムシ類	やや多	やや多
	ハダニ類	並	やや多
	アザミウマ類 (防除情報第13号)	やや多	多
たまねぎ	白色疫病	並	並
	べと病 (注意報第13号継続)	多	多
	ネギアザミウマ	並	並
かんきつ	そうか病	並 (越冬病斑)	並
	かいよう病	やや多 (越冬病斑)	やや多
	ミカンハダニ	並	並
果樹共通	クワゴマダラヒトリ	やや少	やや少
茶	カンザワハダニ (防除情報第14号)	やや多	やや多

【発生予報】 本文の ( ) 内は平年値

麦類

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、大麦・小麦のいずれも発生を認めなかった(大麦：発生を認めない、小麦：過去10か年平均 発病莖率0.0%、発生圃場率0.7%)。

イ 3月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

## 2. 赤かび病

令和3年3月5日付け**病害虫発生予察防除情報第11号**による。

ばれいしょ

## 1. 疫病

令和3年3月16日付け**病害虫発生予察防除情報第12号**による。

きゅうり

### 1. べと病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は8.2%(4.7%)、発生圃場率は54.6%(35.2%)であった。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(11筆)の結果、発病葉率は6.7%(5.7%)、発生圃場率は54.6%(59.2%)であった。

### 3. 褐斑病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.4%、発生圃場率5.3%)。

### 4. 菌核病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(過去10か年平均 発病果率0.0%、発生圃場率1.7%)。

### 5. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(11筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率1.1%)。

### 6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(11筆)の結果、寄生葉率は1.3%(2.6%)、発生圃場率は45.5%(35.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 施設内および周辺の雑草は生息・増殖源となるので除去する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和2年長崎県病害虫防除基準P156～159の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

ウ ハウス外への飛び出しを防ぐため、栽培終了後は施設の開口部を密閉し、日中の室温50℃以上を1週間以上維持し本虫を死滅させる。

## 7. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（11筆）の結果、寄生葉率は2.5%（1.3%）、発生圃場率は27.3%（26.5%）であり、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは退緑黄化病の病原ウイルス（CCYV：ウリ類退緑黄化ウイルス）を媒介するので、防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準P156～159の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

エ ハウス外への飛び出しを防ぐため、栽培終了後は施設の開口部を密閉し、日中の室温50℃以上を1週間以上維持し本虫を死滅させる。

トマト

### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（12筆）の結果、発病株率は3.4%（0.2%）、発生圃場率は16.7%（15.6%）であり、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

タバココナジラミの防除を徹底するとともに、ハウス内の発病株は二次伝染源となるので、見つけ次第直ちに抜き取り、施設外に持ち出し適正に処分する。

### 2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（12筆）の結果、果実での発生は認めなかった（発病果率0.1%、発生圃場率13.5%）。発病葉率は0.0%（過去8か年平均1.0%）、発生圃場率は8.3%（同28.1%）であった。

### 3. コナジラミ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（12筆）の結果、寄生葉率は0.5%（0.9%）、発生圃場率は16.7%（26.0%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 黄色粘着板等で本虫の発生状況を把握し、防除に努める。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和2年長崎県病害虫防除基準P184～187の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤を連用しない。

ウ マルハナバチを使用するハウスでは、影響の少ない薬剤を使用する。

エ 施設内および周辺の雑草は、本虫の増殖源となるので除草を徹底する。

いちご

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（27筆）の結果、葉および果実での発生を認めなかった（発病株率0.0%、過去10か年平均発病果率0.0%、発生圃場率0.5%）。

## 2. 灰色かび病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.0%(0.1%)、発生圃場率は11.1%(17.3%)であった。

## 3. アブラムシ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.8%(0.3%)、発生圃場率は14.8%(6.9%)であった。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生を認めたら初期のうちに防除を行う。

イ 薬剤のかけむらがあると防除効果が低下するので、葉裏まで十分に散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和2年長崎県病害虫防除基準P214～217の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

エ ミツバチへの影響日数を確認してから薬剤選定、散布を行う。

## 4. ハダニ類

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月前期の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は10.5%(8.5%)、発生圃場率は44.4%(48.4%)であった(図)。

イ 向こう1か月の気温は高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

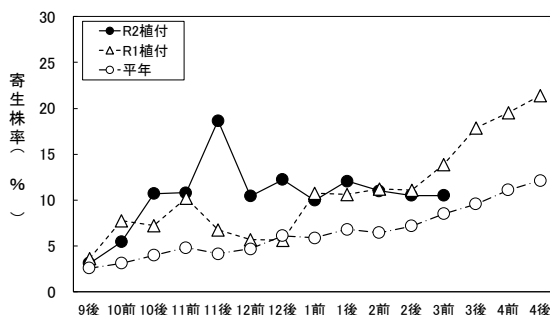


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

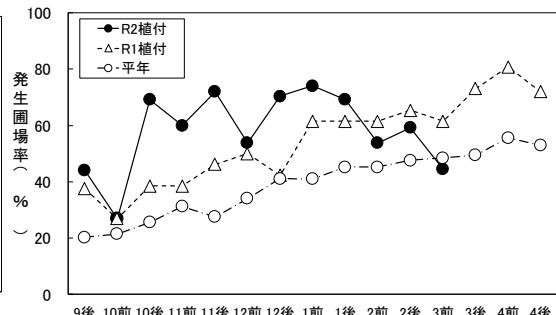


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下葉の裏に多く寄生するので、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。

イ 既に多発している圃場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の付着むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら数回散布する。

ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和2年長崎県病害虫防除基準P214～217の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤を連用しない。

エ 天敵(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ)を使用している圃場では、ハダニ類の発生状況に応じて天敵に影響の少ない薬剤を使用する。

オ ミツバチへの影響日数を確認してから薬剤選定、散布を行う。

## 5. アザミウマ類

令和3年3月16日付け病害虫発生予察防除情報第13号による。

## たまねぎ

### 1. 白色疫病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（16筆）の結果、発生を認めなかった（発生株率0.0%、発生圃場率2.5%）。

### 2. ベと病

令和3年3月2日付け**病害虫発生予察注意報第13号**による。  
なお、その後の発生状況については以下のとおりである。

- (1) 発生状況

3月前期の巡回調査（16筆）の結果、発病株率は0.76%（0.13%）、発生圃場率は56.3%（16.7%）であった（図）。

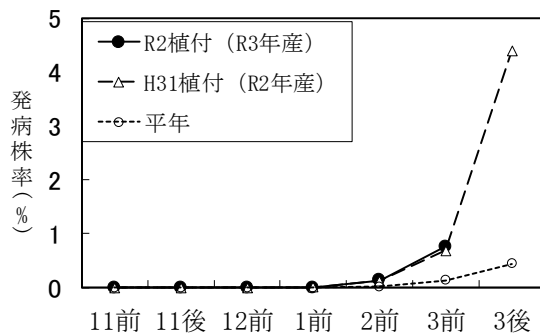


図 たまねぎべと病発病株率の推移

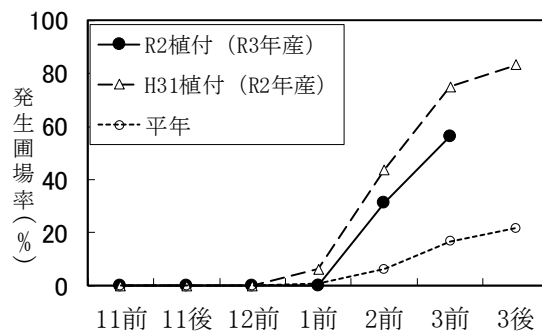


図 たまねぎべと病発生圃場率の推移

### 3. ネギアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（16筆）の結果、寄生株率は19.5%（17.1%）、発生圃場率は68.8%（58.5%）であった。

## かんきつ

### 1. そうか病

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率（越冬病斑）は0.1%（0.0%）、発生圃場率2.8%（2.4%）であった。

### 2. かいよう病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（36筆）の結果、発病葉率（越冬病斑）は0.7%（0.2%）、発生圃場率は38.9%（8.1%）であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

ア 発病枝や葉を除去する。

イ 発芽前の薬剤散布が防除効果が高いため3月中に銅水和剤（クレフノン加用）を散布する。

### 3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

3月前期の巡回調査（36筆）の結果、寄生葉率2.2%（2.2%）、

発生圃場率は30.6%（28.9%）であった（図）。

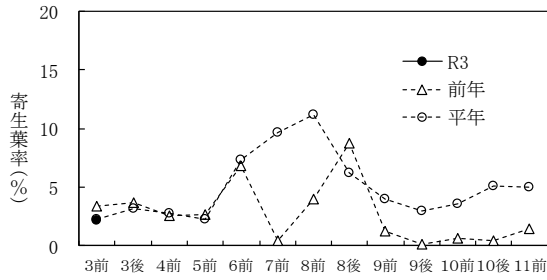


図 ミカンハダニ 寄生葉率の推移

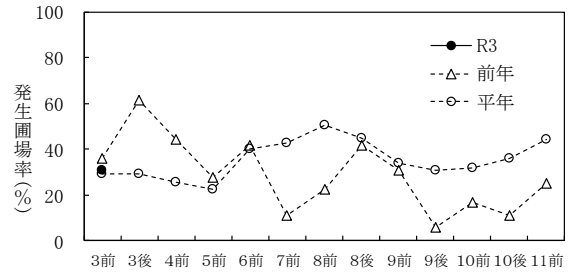


図 ミカンハダニ 発生圃場率の推移

## 果樹共通

### 1. クワゴマダラヒトリ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠

令和2年10月に実施した産卵樹上（アカメガシワ、カラスザンショウ）における幼虫巢の発生調査の結果、県内12地区で発生程度は0.1であった（平成22～令和元年の発生程度の平均値：0.2）。

※以下の基準により発生程度を達観で調査した。

調査基準：極多(5)、多(4)、中(3)、少(2)、極少(1)、無(0)

## 茶

### 1. カンザワハダニ

令和3年3月16日付け**病害虫発生予察防除情報第14号**による。

